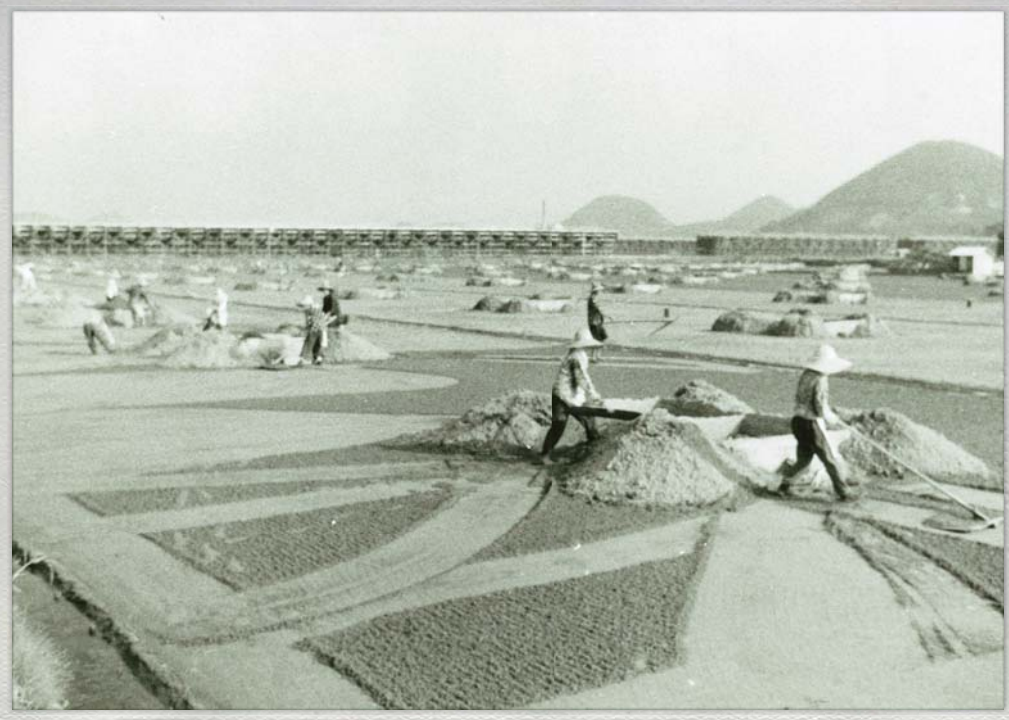




蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 17

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
入浜式塩田の
入れくわ作業
詫間町

入れくわ作業とは、入浜式塩田上に設けられた沼井(ニイ・ヌイ)と呼ばれるところに、塩の結晶が付着した砂を集め入れる作業で、入浜式塩田の作業の中では最も苦しかったという。昭和30(1955)年頃より、入浜式塩田から枝条架を利用した流下式塩田へと変わっていく。

「思い出の1ページ」

「昭和28年の春、中学校を出てすぐ、西野の塩田に働きに行っていたんです」

石原賢要さん(76)は、そう言うて懐かしそうに話してくれました。

「朝4時ごろに家を出て、暗い中を自転車です塩田まで行くのは怖かったですよ。まだ子どもでしたからね。そのころの塩田は入浜式で、私ははなえをしていました。海水がいっぱい入った桶を肩に担いで作業をして、そりゃあ大変でしたよ。」

昭和46年に塩田が廃止になるまでの18年間ずっと働いていましたが、仕事は本当に重労働でした。特に4月の初めころは、風が吹いたら夜通し走り回って仕事をしていました。この時期は塩がよく採れるから、月に80時間、時間外労働をしたこともありました。夏も大変でしたね。炎天下の重労働で倒れる人もいました。今でいう熱中症です。作業の途中で飲む井戸水の冷たくておいしかったこと！今でもよく覚えています。みんな、ごくごく飲んでいましたよ。雨で仕事がないときは肉飯やぜんざいを炊いて、それをみんなで

食べるのが楽しみでした。ぜんざいを一人で十何杯も食べる人もいましたね。

今思えば大変な仕事でしたが、そのおかげで少々なことではへこたれん根性がついたと思います。塩田が廃止になって次の仕事に就いたときも、あれだけしんどい仕事をがんばれたんやから、何でもできるという気持ちでチャレンジできました。塩田での経験が、今の自分に活かされているなあと感じます」



編集
後記

すき、きらい、すき…懐かしいと感じた人も多いのでは。そう、マーガレットを使った恋占いのときのフレーズです。そのマーガレット日本一がこの三豊市なんです！そして、桜。市内には紹介しきれないほどたくさん桜の名所があります。ぜひ、皆さんのおすすめスポットを見つけてみてください。「マーガレット」と「桜」が笑顔と三豊の明日を咲かせてくれます。